

「スローな冬」

文と写真／敷田麻実（野生生物保護学会会長）



冬の札幌は寒いと思っている人が多いが、暖かいのだと答えると、怪訝な顔をされる。札幌のイメージは、雪まつりや四十年近く前の冬季オリンピックでできあがっている。「寒冷地」だというわけだ。寒冷地であって不都合なこと何もないはずなのだが、やはり開放的な夏とは異なり、「暗いイメージ」が問題なのだろう。札幌の人むきになって反論する。

とはいえ、冬の札幌の屋外はやはり寒い。屋外の路面は融けた雪が凍って、表面がつるつるになっている。ふだんの通勤では五分で行けるところが一分以上かかってしまう。あせれば転び、痛い目を見る。

それで結局、スローな移動を求められる。しかし、ゆつくり歩いてみると、これが意外に楽しい。ふだんの自転車やバス通勤では目にとまらなかつたものが見えてくる。滑らないようにと、逆に滑稽な格好をして歩く人の動きは、自分も同類であることを忘れて、おもしろい。

凍結した道に行くスローな移動は、移動することの楽しさを思いださせてくれる。目的地の職場へ行くことだけが目的の通勤から、移動のプロセスを楽しむ通勤へと転換するだけで、心が豊かになる。

